

平成 27 年度活動報告（留学生交流事業等）

構成団体名 高知県立大学

（事業名）国際交流事業「松山道後バスハイク」

（実施時期）平成 27 年 7 月 20 日（月・祝）

（事業概要）国際交流クラブの学生の提案で、松山を訪問することになりました。松山城ではロープウェーとリフトに別れて二の丸まで上がり、本丸を通り天守閣へ。大天守には甲冑の試着コーナーがあり、本学学生と留学生が一人ずつ挑戦。笑いを誘っていました。城独特の急な階段を幾つか上り、天守から市内を一望した時、思わず喚声が上がりました。下山後、グループに分かれて街中で食事を摂り、坂の上の雲ミュージアムへ。近代国家へと歩む明治の日本を垣間見た後は、坊ちゃん列車に乗って道後へ移動。俄か雨に遭ったものの、道後温泉本館の落ち着いた佇まいにカメラのシャッター音が響きました。今回、走り走りでしたが、参加者の皆さんに、少しは日本の文化と歴史を感じてもらえたのではないかと思います。



松山城本丸にて、参加学生全員で撮影



甲冑を着た文藻外語大学の謝其湘君を真ん中に、留学生三人でファイティング・ポーズ！



坂の上の雲ミュージアムでは、小説の主人公三人(正岡子規、秋山好古・真之兄弟)が描かれた塗り絵に挑戦した人も。



道後温泉本館前で、自撮りをする参加者の学生。この時は小雨が降っていましたが、学生たちは傘もささずに元気いっぱい！

平成 27 年度活動報告（留学生交流事業等）

構成団体名 高知県立大学

（事業名）国際交流事業「四万十バスハイク」

（実施時期）平成 27 年 11 月 29 日（日）

（事業概要）四万十川水系の一つで、流域で最も水が透き通っていると言われる黒尊川の紅葉を目指しました。本当にこの道なのか？少し不安になりかけた時、目的地の親水公園に着きました。残念ながら紅葉はほとんど終わっていましたが、爽やかな空気と景色の中、何でもないようなお弁当がご馳走になりました。親水公園を出て元の道に戻り、曲がりくねった国道へ。江川崎からは広い道になり一安心。途中、道の駅「四万十とおわ」に寄って休憩後、もう一つの目的地、海洋堂ホビー館へ。ところ狭しと並んだ圧倒的なフィギュアの量。子供の世界を大人の趣味へと広げる展示の数々。学生たちは、三々五々、興味の赴くままに館内を巡りました。高知の山奥に分け入り 2 棟の博物館を建てて、30 万人も集めてしまう宮脇館長の情熱に感心しきり。帰途はすっかり暗くなりましたが、バスは安全運転で全員無事キャンパスに戻ることができました。四万十の自然を満喫した一日となりました。



黒尊川親水公園にて。お弁当を食べた後とあって、皆の表情が柔らかい。



大きな石がごろごろ転がる黒尊川の川原。平たい小石を探して水切りをする学生もいました。さらに上流には、水があるのか分からないほど透明な深瀬もあるとのこと。見てみたいものです。



四万十川上流域の道の駅「四万十とおわ」から川べりに降りたところ。岩肌を縫って流れる四万十川の表情も面白い。



お前はすでに…！？



私の国からも、ホビー館に来ていました！



帰途に着く前に、海洋堂ホビー館の前で記念撮影。今日も一日、お疲れ様でした。